

# 豊かな自然環境を未来へ～南房総・館山から世界へ～

1日目 10月28日(金)

## ジョイントシンポジウム 海の森ブルーカーボン ～ブルーカーボンが地球を救う～

- 13:00 開会
- 13:15 【基調講演】  
「世界のアマモ場～国際共同研究でわかってきたその役割と現状～」  
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所 仲間雅裕氏
- 13:55 「日本各地でのブルーカーボンの活用試験と千葉県での事例紹介」  
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 堀正和氏
- 14:35 【事例発表】  
「海岸構造物で創出したブルーカーボン～低炭素コンクリート代替材の利用でもCO<sub>2</sub>削減に貢献～」  
電源開発株式会社 茅ヶ崎研究所 鍵本広之氏
- 15:05 「東京湾 UMIプロジェクトと館山港の取組」  
国土交通省 関東地方整備局 港湾空港部 岡島達男氏
- 15:50 【パネルディスカッション】  
「これからのブルーカーボンに期待すること、期待できること、地域から世界へ」
- 16:45 終了

3日目 10月30日(日)

## 海辺の自然再生・高校生サミット [2]

- 9:15 館山市環境美化ポスターコンクール表彰式
- 9:35 高校生発表⑥ + 質疑応答・コメント10分  
(千葉県立安房高校/千葉県立館山総合高校)
- 10:05 【特別講演】  
前環境省事務次官 中井徳太郎氏
- 10:45 【パネルディスカッション】  
未来のためのディスカッション  
(講演者、参加高校生等)
- 11:50 【クロージングトーク】  
「未来につながる自然環境 出来ること」  
木村尚氏・竹内聖一氏
- 12:00 【大会宣言】  
サミット総括
- 12:15 【次回開催地講演・引継ぎ式】  
「全国アマモサミット 2023 に向けて」  
一般社団法人ふくおか FUN 大神弘太郎氏
- 12:30 閉会



2日目 10月29日(土)

- 9:00 開会式 (館山市立館山小学校音楽部による吹奏楽演奏ほか)
- 9:35 【オープニングトーク】  
「これから始まるアマモサミットでは今までとこれから」  
NPO 法人海辺つくり研究会 木村尚氏  
NPO 法人たてやま・海辺の鑑定団 竹内聖一氏
- 9:55 【記念講演】  
「大阪湾におけるアマモ場再生活動」  
NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター 岩井克巳氏
- 10:25 【活動報告】  
「漁業者の取組と今後の展開～漁業者の意識改革を目指して～」  
JF 全国漁業連 川畑友和氏
- 10:45 「アウトドア事業者連携と教育活動の実践事例」  
NPO 法人千葉自然学校 神保清司氏
- 11:05 「観光協会がおこなう地元自然環境を活用した観光まちづくり」  
一般社団法人南房総市観光協会 吉田光久氏
- 11:25 「千葉県館山市沖ノ島の海と森を守る実践事例」  
NPO 法人たてやま・海辺の鑑定団 竹内聖一氏
- 11:45 ジョイントシンポジウムの報告会  
(休憩)
- 13:00 「海を守るために今できること」  
館山市立北条小学校 4年生

## 海辺の自然再生・高校生サミット [1]

- 13:15 高校生発表① + 質疑応答・コメント10分  
高校生発表② + 質疑応答・コメント10分  
高校生発表③ + 質疑応答・コメント10分  
高校生発表④ + 質疑応答・コメント10分  
高校生発表⑤ + 質疑応答・コメント10分 (10校)
- 発表校  
【北海道・東北エリア】 北海道小樽水産高等学校/青森県立青森工業高等学校/宮城水産高等学校/山形県立加茂水産高等学校  
【関東・中部エリア】 千葉県立安房高等学校/千葉県立館山総合高等学校/神奈川県立海洋科学高等学校  
【近畿・中国エリア】 関西大学北陽高等学校/岡山学芸館高等学校  
【九州エリア】 福岡県立伝習館高等学校/福岡県工業大学附属城東高等学校/熊本県立芦北高等学校  
※千葉県立安房高校・千葉県立館山総合高校は30日。
- 16:15 【活動報告】  
一般財団法人セブン-イレブン記念財団 森永仁氏
- 16:45 終了

この活動は、一般財団法人セブン-イレブン記念財団、マルハニチロ株式会社、東京海上日動火災保険株式会社の協賛と公益財団法人日本財団の助成を受けて実施します



全国アマモサミット(28日・29日・30日開催)内

10月29日(土) 13:15~16:15  
10月30日(日) 9:35~10:05

会場 千葉県立館山総合高校水産校舎 〒294-0037 千葉県館山市 長須賀 155  
参加費 無料 (下記の参加申し込みフォームよりお申し込みください)



木村 尚  
NPO 法人 海辺つくり研究会 理事・事務局長



岩井 克巳  
NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター 専務理事

活動 アドバイザー

海辺の自然再生  
アマモは、日本各地の砂泥地に生息する海藻の一種で、その群落によって形成されるアマモ場は「海のゆりかご」ともいわれるように、魚の産卵や稚魚の成育の場として重要でした。しかし、経済成長に伴う沿岸海域の開発などにより、アマモ場は急速に失われました。近年、各地でアマモ場の再生活動が行われるようになり、今後はさらなる活動の推進が必要で、また、アマモ場に限らず、海辺の自然再生には藻場・干潟・サンゴ礁など、その地の生態系に応じて、自然・社会両方の側面からの多様な試みが必要です。

「海辺の自然再生・高校生サミット」は、全国の高校生が、アマモ場の再生活動をはじめとする海辺の自然再生活動の成果を発表し、意見交換を行うものです。本年度のサミットは、千葉県館山市で開催する「全国アマモサミット」(全国アマモサミット2022 in たてやま実行委員会主催)の一部として開催します。「積極的な情報交換や交流により、これまでの研究を振り返り、新たな着想が生まれることを期待しています。」



主催：NPO 法人海辺つくり研究会 / NPO 法人共存の森ネットワーク  
協賛：一般財団法人セブン-イレブン記念財団 東京海上日動火災保険株式会社 マルハニチロ株式会社  
助成：公益財団法人日本財団

詳細 <https://amamo-summit.net/>  
参加申し込みフォーム <https://amamosummit2022tateyama.com/>

【お問合わせ】海辺の自然再生・高校生サミット事務局 〒156-0043 東京都世田谷区松原1-11-26 コスモリヴェール松原301 (NPO 法人共存の森ネットワーク内) TEL:03-6432-6580 FAX:03-6432-6590 e-mail:mori@kyouzon.org



# 高校生サミット発表校の紹介

本年度は北海道から九州まで、全国12校が日頃の研究や活動成果を発表します。

## 北海道・東北エリア

### 北海道小樽水産 高等学校

私たちは今年度より、アマモ場の調査活動と再生活動を開始しました。スクーバダイビングで大まかな面積の測定、モニタリングを行っています。また、スガモという種類のアマモを200本、スクーバ潜水で移植しました。



### 青森県立青森工業 高等学校

青森県の陸奥湾は皆さんがご存知のように、全国でも有数のアマモ場が広がっており、私たちもその海の恩恵を受けています。近年、そのアマモ場が減少しつつある中、企業や漁協の方々にも協力してもらいながら、共にアマモ場の維持・造成のために、竜宮礁を野内池先に設置するなど様々な取り組みを行っています



### 宮城県水産 高等学校

「海藻の活用方法について」として、アマモをはじめとした各種の海藻を様々な野菜の肥料として活用しようと模索した昨年度でしたが、本年度も引き続き肥料としての活用に取り組みました。また、アマモ場の魚類等についても地曳き網等で調査し、アマモ場等藻場の有効性についての検証もを行っています。



### 山形県立加茂水産 高等学校

本校は藻場保全を、漁業者、鶴岡市、山形県水産研究所と共に行っています。今年度は更に新たな取り組みを開始しました。鶴岡市上下水道部より、下水道資源を藻場造成に活用できないかとの依頼があり、現在、山形大学農学部との協力のもと、アカモクを使い実験中です。



## 近畿・中国エリア

### 関西大学北陽 高等学校

私たちは、保健の授業内で海洋問題が様々な環境問題と繋がっていることを理解し、SDGs14「海の豊かさを守ろう」の目標の達成に向けて『100年後の海へ～私たちの、今できること～』を探究しています。そして、その学びを活かし大阪湾「アマモ場再生活動」と小学生や中学生との異校種間連携プログラムの構築に挑戦しています。



### 岡山学芸館 高等学校

里海の聖地と呼ばれる岡山県備前市日生町で、2017年から海洋研究に取り組んでいます。1年次にアマモ場再生活動や聞き書きに取り組み、2年次で牡蠣養殖体験や海洋課題研究を行っています。今年度は、アマモ実生ポット100%育成成功を目指して、実生もやし化の謎を解明します。ひとり1ポット育てるアマモ実生苗を、里海づくりに繋げるために。



### 千葉県立安房 高等学校

2014年頃より千葉県館山市沖ノ島のアマモ場は年々減少していました。原因は特定できていませんが、海だけでなく陸環境の変化の影響も考えています。さらに2019年の台風によりアマモは完全に消失してしまいました。そこで私たちはNPO法人たてやま・海辺の鑑定団様と共に、海と陸のつながりを意識したアマモ場の再生を試みています。また、環境保全活動を行いながら、現状認識のための基礎調査として魚類調査も始めました。



### 千葉県立館山総合 高等学校

私たち館山総合高等学校海洋科では、NPO法人たてやま・海辺の鑑定団様の御指導を頂きながら、アマモの再生活動に取り組んでいます。また、館山水産事務所からの要請を受け、磯焼けの被害が大きい岩井地域のガンガゼの駆除にも取り組み、今年で3年になります。このような海洋環境の変化はスクーバダイビングの実習で館山湾に潜る度、ひしひしと感じられます。今年度は、館山湾、鷹ノ島周辺に見られる温暖化指標生物や海水温の長期的変化等について、課題研究の授業で取り組んでいます。



### 神奈川県立 海洋科学高等学校

相模湾最大級の藻場があった小田和湾は、相模湾で最も深刻な磯焼けになりました。そこで藻場再生に向け、2016年より本校に残された唯一の小田和湾産アマモ株を育て、少しずつ株を増やしてきました。そして、2022年6月に念願の植栽を行い、経過を水中タイムラプスカメラ等を用い、観察しています。



### 福岡県立伝習館 高等学校

私たちは2014年にニホンウナギが絶滅危惧IB類に指定されたことを機に、2つの地域でニホンウナギのサクチュアリづくりを行っています。ニホンウナギが減った要因を海域と陸域のエコトーンが消失したことだと考え、エコトーンが機能するための様々な提案をしてきました。今年度は、福岡県の最高峰でブナの原生林が残されている釈迦岳山頂付近の腐植層が自重の28倍も水を蓄えることを調査し、海や川の持続的な水環境を維持するために、広葉樹林の林床の発達した腐植層が必要であることを発表します。



### 福岡県工業大学附属 城東高等学校

私たちは高校の近くにある和白干潟や博多湾を中心に活動しています。周辺に住む小・中学生対象に和白干潟の観察会を行い、また清掃活動を行うなど、環境保全意識の向上を図りました。また、研究として博多湾内のアマモが生えている場所の調査や種子の採取、移植場所の検討や方法の模索を行いました。



### 熊本県立芦北 高等学校

20年前、地元の芦北漁協より依頼を受け、アマモ場造成活動を始めました。活動当初0.25haのアマモ場は、長年の活動成果により、7.5haまで拡大に成功しました。しかし、令和2年7月熊本豪雨災害によって約5haのアマモ場が消失。現在私たちは、消失したアマモ場の早期再生を目標に、独自で考案した造成方法に取り組んでいます。



## 関東・中部エリア

## 九州エリア